



THE ROTARY CLUB OF KUSHIRO WEST 2010~2011(平成 22 年~23 年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和 45(1970)年 6 月 8 日 承認 昭和 45(1970)年 6 月 10 日

2010~2011 RI テーマ 「地域を育み、大陸をつなぐ」

《本日のプログラム》 1 月 24 日 12:30

普通例会

会員卓話

《次回のプログラム》 1 月 31 日 12:30

普通例会

ゲスト卓話

《例会日:毎週月曜日 12:30~13:30》

《例会場:釧路全日空ホテル 釧路市錦町 3-7》

会長 石川 俊二 幹事 三木 克敏

■クラブ事務所■

釧路市幸町14丁目1-1 ノースコートサンスイ2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

2011 年 1 月 24 日(月) 第 22 回 通算 1905 回

【点鐘】 石川会長

【ロータリーソング斉唱】 「それでこそロータリー」 ソングリーダー:金田会員

【会長挨拶】 石川会長



みなさんこんにちは。今日は、会員卓話で三宮会員と鶴田会員のお二方に戦争体験をテーマにお話をいただけるので楽しみにしております。ちなみに、1972年1月24日にグアム島で横井庄一さんが発見されております。

次に、釧路市子ども遊学館より、1月28日に寄付の贈呈式を行うとのことであります。先日報告しました「はやぶさ カプセル」展示にからむブルーレイ・レコーダーの寄付に対する、釧路市からの感謝状の贈呈だそうです。みなさんも、2月16日からの展示になりますのでぜひとも足を運んでいただければと思います。

【幹事報告】 三木幹事



- ・ロータリーの友事務局より、一般社団法人の移管が完了しましたとの連絡がありました。
- ・2月ロータリーレート 1ドル=84円
- ・新年交礼会二次会にて会報等用のカラープリンターの購入寄付をお願いしたところ、多大なご寄付をいただきました。特に井岸会員にはたくさんのご寄付をいただきました。おかげさまで、無事購入することができました。
- ・「釧路の子ども達の基礎学力問題」をテーマに、2月2日(水)釧路北ロータリークラブへゲスト卓話に出向いて参ります。

【委員会報告】

○親睦活動委員会 小泉副委員長

「ニコニコ献金内訳」

☆本人誕生 三宮会員

☆奥様誕生 鶴田会員

☆結婚記念 大場会員

☆その他 張江会員

【本日のプログラム】 担当 職業奉仕委員会

●会員卓話 戦争体験を語る

《三宮会員》



1941年(昭和16年)12月8日早朝、昭和天皇の勅語によって、米英両国と戦争状態に突入した。それ以前にも、日清・日露・日中戦争があり、広大な面積の中国とは、その当時戦争状態にあった。出口の見えない日中戦争が続く中、日本は中国(蒋介石の政府)を支援するアメリカとの関係に悩んでいた。また、アメリカも東南アジアに勢力を広げようとする日本に警戒感を強めていた。悪化する日米の改善のため、日本・米国の間で何度も交渉が行われたが、互いに主張を譲らず、交渉は不調に終わった。

日本の選択肢は、自国の利益を捨てて米国(世界)と協調体制をとるか、それとも利益を守るためにアメリカと戦うかに絞られていた。そんな中、天皇からアメリカとの戦争回避を託され、東条英機が内閣総理大臣に就任する。しかし、追い詰められた日本は、結局アメリカと戦争する道を選んでしまう。それは、日本国民やアジアの国々に途方もない犠牲と被害をもたらした、太平洋戦争の始まりであった。開戦時の戦況は華々しく、半年で日本軍は東南アジアと南太平洋のほとんどを占領し、この快進撃に国民も熱狂した。日本軍が初期に勝利を重ねられたのはおもに3つの理由があった。

1. 戦闘の相手が植民地に派遣された軍隊で主力部隊ではなかった。
2. 大東亜共栄圏を唱えた日本に、植民地支配から開放を望んだ現地の人たちが協力したこと。
3. この段階でアメリカ・イギリスの第一の敵はドイツで、戦力をドイツの闘いに費やしていたこと。

しかし、勝利に沸いたのもつかの間、戦況は翌年の1942年には、早くも転機を迎え、戦いの態勢を整えたアメリカ軍が反撃に出、6月に日本軍は太平洋のミッドウェイで大敗、航空母艦4を含む軍艦5、航空機約300機、兵員3千人を失う大損害を被った。この時、既にアメリカは日本海軍の暗号を解読し、日本の作戦はアメリカに筒抜けになっていたのである。ミッドウェイの敗北から、日本の戦況は悪化の一途をたどり、遂に日本列島が、空襲などの被害を受けるようになる。1945年になるとアメリカ軍は、沖縄を占領、日本の主要都市が大規模な空襲にさらされ、広島・長崎は原爆に見舞われ、そして1945年8月15日ポツダム宣言受領、終戦となった。

釧路空襲については、1945年(昭和20年)7月14日5時前より始まった。南方戦況が悪化して、1944年(昭和19年)6月サイパン島に反攻上陸した米軍が、ここに強力な基地を築いてからは、わが本土に対するB-29の猛烈な空襲が始まり、次第に機数、回数を増やし空襲範囲を広げたが北海道もまた、この空襲から逃れることができなかった。北海道に初めてB-29の侵入を見たのは、1945年(昭和20年)6月26日であるが、越えて7月14日の早朝、B-29約20機と機動部隊より発進した艦上機延べ300機は、前後7時間にわたって海陸の交通機関及び、函館・室蘭・帯広・釧路などに対して、爆弾、焼夷弾、機銃をもって波状攻撃を加え、翌15日早朝から函館・小樽・旭川・室蘭・帯広・釧

路・網走などを爆撃、機銃射撃し、これに呼応した機動部隊の一部は室蘭に対艦砲撃を行い、根室・釧路をはじめ、室蘭・函館・本別など甚大な戦災を受けた。14日午前4時50分ごろ、敵機は海上からまっすぐ釧路上空に侵入した。この朝は侵入機の爆音のみで、一般には敵機として認めていなかった。監視所は敵機と認め「グラマンF15機北方上空通過」と報告したが、なぜか警報は発令されなかった。この編隊が旋回したのか、別の編隊が旋回したのか、5時10分ごろ、敵機は雲間より突如舞い降り、重要施設に投弾し機銃を見舞った。警戒警報のサイレンが鳴り出したのは、機銃掃射の最中である、6時17分第4波、10時20分から約25分間の第6波の攻撃で、釧路市内は浪花町の国道38号線以東で大被害を受けた。死者177名、重傷者46名、軽傷者97名、消失家屋1373戸、倒壊家屋1618戸、罹災者6211名、消失面積19.8ha(6万坪)であった。

《鶴田会員》



昭和16年12月8日、当時私は10歳で小学4年生でした。朝のニュースで大本営発表がありました。「本日8日未明、帝国陸海空軍は、西太平洋において米国及び英国に対して戦闘状態に入れり。」しばらくして、ハワイ太平洋艦隊の戦艦サラトガを撃沈、その他多数の撃沈で日本中が舞い上がりました。昭和17年代には石油資源獲得のため、東南アジア方面、特にマレー半島へ進出しました。活躍したのは自転車部隊(銀輪部隊)といって、当時はまだテレビが無かったので、映画館のニュースで見ました。

その当時は、香港、マニラ、シンガポールを次々と進軍し、国内では提灯行列を行い、国中は舞い上がっていました。ここまでが戦勝であり、それからは下り坂でした。アリューシャン群島、アッツ島の玉砕、ここにいた山崎軍団長は、私の学校の先輩でした。珊瑚海の大敗、情報漏れなど日本の太平洋艦隊はほとんど全滅しました。昭和19年春に初めて、東京で空襲がありました。これは空母から飛び立った軽爆撃機であり、偵察のため低空飛行であったので、搭乗員が見えるほどでした。昭和20年に入ると、グアム島からB-29重爆撃機が飛来し、3月10日、東京大空襲があり、主に(下町方面深川など)、隅田川の河岸、浅草、上野、銀座を含む一面の焼け野原になり、後世まで残る大惨事となりました。

被害を受けた人は、暑さのあまり隅田川へ飛び込んで亡くなった人が多数いました。私は、川で亡くなった人を岸に上げる作業をしました。中学2年の私には大変な作業で、2度とこのようなことが起こらないようにと思いました。当時若い人たちは兵隊に行っていたので、老人と女性しかいないため、鳶口で岸に寄せる作業でした。4月15日は、上野方面(新宿、池袋、世田谷)で空襲がありました。当時、目白に住んでいたため、まともに空襲にあいました。焼夷弾がばらばらと、火が追いかけてくるように迫ってくるほどです。焼夷弾とは空中分解して、広範囲に広がって落ちてくる爆弾で、直接体にあたった人もいたほどでした。私たちは幸い怪我もせず、家族は前もって集合場所を決めていたので全員無事でした。

《例会運営委員会 佐久間 委員長》

1月24日	在籍数	31名	出席免除者	4名	出席義務者	26名	「編集:佐藤雅会員」
	名誉会員	1名	出席者	18名	欠席者	8名	出席率 58.1%
1月17日	修正出席率	45.2%					

会報委員長:	櫻田 美香	副委員長:	斎藤 静枝
委員:	加藤 精二 八村 弘英	佐藤 雅之	小泉 和史